

〔学校教育目標〕  
 自ら学ぶ、心豊かでたくましい児童生徒の育成  
 〔めざす児童生徒像〕  
 ㊦と（他者）に優しい子 ㊧く考える子 ㊨なやかで元気な子

研究主題 学ぶ楽しさを感じ、自ら学ぶことのできる児童生徒の育成  
 ～幅広く多様な考えを引き出す授業の研究を通して～  
 【仮説】 自分の考えをもつ場面と協働的な学びを行う場면을仕組むことで、児童は学ぶ楽しさを実感することができるであろう。

今年度の重点目標  
 積極的に協働的な学びを行い、自ら学ぶ児童の育成  
 ※協働的な学びに関する児童の肯定的評価 目標 70%

〔学習習慣の向上〕  
 ○家庭学習習慣の定着  
 ・家庭学習におけるキュビナの活用  
 ・自主学習の取組  
 ○望ましい生活習慣の定着  
 ・「生活がんばりカード」「メディアコントロール」等の小中合同実施  
 ・家庭との連携

〔授業改善〕  
 ○自分の考えをもつ場面の設定  
 ・教師の発問や指示の精選  
 ・児童が教師の発問や指示を確実に理解しているかの確認  
 ○協働的な学びを行う場面の設定  
 ・根拠を明確にし、文章だけでなく、キーワードや図などを用いて説明させる。  
 ・自分と他者の考えの類似点・相違点を考えさせる。  
 ○多様な考えに触れさせる  
 ・複式学級のメリットを生かし、他学年の考えに触れさせる。  
 ・他校と交流して、多様な考えに触れさせる。

〔職員研修〕  
 ・中学校と連携して研究を進める。  
 ・全職員参観の全体授業を、小学校・中学校とも1回ずつ行う。  
 ・自由参観期間を設け、小中お互いの授業を参観する。  
 ・ICT機器活用・特別支援教育・安全教育等の研修の実施

課題	要因
<p>本校は少人数であるため、学力調査結果だけの分析では、実態をつかめない。そのため、普段の授業・テスト・授業者の実感から、課題を分析した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問の意味を正しくとらえ、問われていることに適切に答える力が不十分である。</li> <li>・与えられた情報を正しく読み取り、情報をもとに思考する力が不十分である。</li> <li>・各教科（特に算数・理科）で学ぶ用語を用いて説明する力が乏しい。</li> <li>・自分の考えを押し通し、他の考えを受け入れようとしない傾向がある。</li> <li>・与えられた課題には取り組むものの、自主的に学びを進めたり深めたりしようとする姿勢はほとんど見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のため、多様な意見や考えに触れる機会が少ない。</li> <li>・人間関係が固定されており、良い意味でのライバルがないため、向上心に乏しい。</li> <li>・児童同士がお互いを理解し合っているので、自分の思いを相手に懸命に伝えようとしたり、相手を理解しようとしたりする機会が乏しい。</li> <li>・基本的な生活習慣の定着の個人差が大きく、学習に向かう姿勢が整っていない児童がいる。</li> </ul>

## 各学年における学力向上プラン

	課題の把握	授業改善・家庭学習
1 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長音と促音の定着が不十分だったり、主語と述語にねじれがあったりする。</li> <li>・語彙が少なく、様子や考えを詳しく話したり書いたりすることが苦手。</li> <li>・基礎計算に時間がかかる。</li> <li>・算数において、単位換算や加減計算の知識技能の定着が不十分。</li> <li>・算数の思考力が必要な問題で、立式の誤りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で長音と促音、主語と述語を意識した短文作りを行う。</li> <li>・語彙を増やすために、学習や読書、生活の中で知った言葉を「言葉の貯金箱」に書き込ませていき、作文やスピーチで活用することを奨励する。</li> <li>・週末や行事の後には、日記や作文で書く経験を重ねる。良い表現を紹介し、豊かな言葉を使うことに関心が向くようにしていく。</li> <li>・家庭学習で音読と計算カードの練習に取り組みせ、読みや計算のスピードをつける。</li> <li>・身近な生活に関連させた長さ・かさ・時間の復習問題に定期的に取り組みせる。</li> <li>・算数の文章問題では、わかっていることと問いをはっきりさせ、簡単な図や線分図を描いて考えさせる。また、見積もりもさせる。</li> </ul>
3 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問に対して適切に答える力が不十分。</li> <li>・主述の関係・つながり言葉・句読点の使い方等が未定着のため、書く・読むことに課題がある。</li> <li>・既習事項をもとにした数学的思考に課題がある。</li> <li>・丁寧に取り組む姿勢、基礎的な知識技能（正しく読む・書く、四則計算等）の定着が不十分な児童が見られる。</li> <li>・他者の意見を受け入れようとしない傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問い・条件や情報・答え方を確認させる。</li> <li>・根拠を明確にし、文章やキーワード、図などを用いて説明する場面を設定する。</li> <li>・自分と他者の考えの類似点・相違点を考えさせ、よりよい考えを導き出す経験を通して、協働的な学びの良さを実感させる。</li> <li>・家庭学習を活用し、基礎的な知識技能の定着を図る。</li> </ul>
5 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問われていることを正しくとらえる力が不十分。</li> <li>・与えられた情報を正しく読み取り、情報をもとに思考し、キーワードを用いたり条件に合わせたりして表現する力が乏しい。</li> <li>・算数の図形領域の理解が不十分。</li> <li>・既習事項の定着や学習意欲に個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を問われているのか、どのように答えれば良いのかを確認させる。</li> <li>・文章やグラフ・写真などの資料から読み取れる情報を明確にする。</li> <li>・導き出した答えが、問いの答えとして適切かどうかの確認をさせる。</li> <li>・算数において、公式を覚えるだけでなく、その意味を理解させる。</li> <li>・調べ学習において、調べて分かったことを自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>・一斉指導と併せて、個別最適な学びを進める。</li> </ul>